



JACTFL/SOLIFIC 主催
シンポジウム実施要項 (案)

シンポジウム

第9回外国語教育の未来を拓く： 世界とつながる複数外国語教育の展望

◆基調講演◆

「多言語学習と多元的世界」
施 光恒(九州大学教授)

◆特別企画◆

「コロナに負けない高校生の若き取り組み」
ドイツ語／韓国語・インドネシア語／ロシア語／フランス語

◆研究発表◆

「世界とつながる複数外国語教育の展望を実現する多様な実践報告」
分科会1：オンライン授業の実践について
分科会2：多言語・複言語教育について

日 時：2021年3月14日(日) 12:30~18:00

会 場：オンライン (Zoom)

主 催：一般社団法人日本外国語教育推進機構 (JACTFL)
上智大学国際言語情報研究所 (SOLIFIC)

🌀 実施概要

開催趣旨：

本シンポジウムは、さまざまな外国語教育の関係者が一堂に会し、外国語教育の未来を拓くための具体策を練り、それを実現するための機会としています。

2013年からは、「外国語教育の未来を拓く」というテーマを掲げ、日本における多言語・複言語教育の未来を拓くための具体策を練り、意見交換する場を毎年継続して提供してきました。一方、多言語・複言語教育を促進するために、多方面にわたる関係者に具体的な提案を行い、粘り強く働きかけを行ってきました。その甲斐もあり、この数年間で多言語・複言語に対する世間の関心、多様な外国語教育の実践、外国語教育に関わる者同士をつなげるネットワーク、そして、多言語教育推進事業は、手応えを感じる進展を見せています。

なお、今回の第9回シンポジウムは、コロナ禍のため、オンラインで実施します。

🌀 実施体制

特別協力：一般財団法人日本私学教育研究所、公益財団法人国際文化フォーラム

後援：文部科学省、外務省、東京都教育委員会

参加者：小中高校・大学の外国語教育・国際理解教育・異文化間コミュニケーション等の教育関係者、教育行政機関関係者、学校の管理職、メディア、企業関係者ほか 150-200名

参加費用:オンラインのため無料

🍷 プログラム

12:00～ Zoom 開室

【第1部】

◇12:30～12:45

開会・挨拶 山崎 吉朗 JACTFL 理事長/日本私学教育研究所
小野 賢志 (文部科学省 初等中等教育局 情報教育・外国語教育課
外国語教育推進室長)

◇12:45～14:15

基調講演 施 光恒 (九州大学教授)
「多言語学習と多元的世界」

【第2部】

◇14:15～15:15

特別企画 コロナに負けない高校生の若き取り組み

◆発表1: 「東京都立北園高等学校」ドイツ語

◆発表2: 「関東国際高等学校」韓国語・インドネシア語

◆発表3: 「北海道札幌国際情報高等学校」ロシア語

◆発表4: 「カリタス女子中学高等学校」フランス語

◇休憩 15:15～15:30

【第3部】

◇15:30~18:00

研究発表「世界とつながる複数外国語教育の展望を実現する多様な実践報告」

◆分科会 1 オンライン授業の実践について

「ハイフレックス型国際協同学習のデザインと学習成果 – アイヌ文化の展示解説を事例として –」

杉江 聡子（北海道大学）

「多様なスペイン語話者・学習者と繋がる活動 – 留学希望学生のためのオンライン講座での試み –」

寺尾 美登里（立命館大学）

平井 素子（立命館大学）

Andrés Perez Riobo（立命館大学）

「ドイツ語オンライン授業 – 大学教員の悪戦苦闘 – 1年間を振り返って」

神谷 善弘（大阪学院大学）

「Flipgrid を活用した日露オンライン相互学習の試み」

北岡 千夏（関西大学）

東 康太（極東連邦大学（ロシア連邦））

「Google フォームと Zoom を用いた日仏学生交流の試み」

西部 由里子（慶應義塾大学）

根来 良江（ラ・トゥール中学高等学校 他）

後藤 由美（ESCE ビジネススクール 他）

◆分科会 2 多言語・複言語教育について

「外国語学習の継続について－高大接続と学習者の意識から－」

松木 瑤子（慶應義塾大学大学院）

「高等学校における多様な言語学習機会の地域差（手話・点字・方言等を含む）－卒業論文経過報告－」

岩崎 和彦（長崎大学）

「学校設定科目「スペイン語」を立ち上げるまでの過程」

日比野 規生（神奈川県立深沢高等学校）

「外国語教育における 3 つの資質・能力とパフォーマンス評価－高大協働による取り組み－」

山下 一夫（慶應義塾大学）

境 一三（慶應義塾大学）

吉川 龍生（慶應義塾大学）

縣 由衣子（慶應義塾大学）

山下 誠（神奈川県立岸根高等学校）

「大学での「多言語活動授業」の試み－複数の言語に触れることで得られたこと－」

平山 絹恵（一般財団法人言語交流研究所）

村田 幹雄（一般財団法人言語交流研究所）